

山形美術館 平成 26 年度事業報告

概要

平成 26 年度の公益事業は、当館の開館 50 周年を記念し、日本の近代陶芸を紹介する「没後 50 年 板谷波山展」を皮切りに、夏に山形新聞・山形放送 8 大事業「細川家の名宝と細川護熙の風雅」、秋に当館の収蔵品による「山形の美術 山形美術館の歩みとともに」、冬には「ヨーロッパ絵画展 パロックから近代へ」の 4 企画展を「平成 26 年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」の助成を受けた「山形県文化芸術創造発信事業」の一環として実施した。さらに山形県民の美術振興を図る 3 県展と、収蔵品によるテーマ展「新収蔵品展」と「吉野石膏コレクションのすべて」、常設展による収蔵品展事業、また美術に関する創作活動を行っている個人・団体に対する 20 の展示施設貸与事業を行った。そのほか『山形美術館のあゆみ 五十年記念誌』の刊行、収蔵品館外貸出による他機関への協力、大学生の実習生の受け入れ指導などを実施した。

これら公益事業関連の展覧会総入場者数は 80,925 人となった。昨年度 76,461 人と比較すると、企画展事業と収蔵品展事業で 8,950 人の増加、展示施設貸与事業で 4,486 人の減少、合計で 4,464 人の増加となった。

収益事業では、企画展に合わせたミュージアムグッズの取扱を実施した。喫茶室は 9 月から有料の飲料自動販売機を設置した休憩室に変更した。

法人運営および施設管理では、大型展開催期間の温湿度等の環境管理に努めた。

1. 公益事業

企画展事業

山形県民はじめ広く美術愛好者に国内外の優れた美術作品および関連資料を鑑賞する機会を提供する事業を行った。

4月3日 5月11日 開館50周年記念 没後50年 板谷波山展

1872 年茨城県真壁郡下館町(現・筑西市)に生まれ、「葆光彩磁」などの格調高い独自の作風を確立し、陶芸家として初の文化勲章を受章、近代陶芸史に大きな足跡を残した板谷波山の本格的な回顧展で、山形との関わりや新出の作品・資料など近年の研究成果を踏まえ、代表作約 150 点と資料によって波山芸術の全貌を紹介した。4 月 26 日山形大学大学院地域教育文化研究科実習生によるワークショップ「焼き物って何? 器に色をつけてみよう!」、5 月 3 日に花井久穂(茨城県陶芸美術館学芸員)氏による作品解説会、5 月 5 日に荒川正明(本展監修者/学習院大学教授)氏による記念講演会「板谷波山の陶芸」を実施した。新聞紙上での作品紹介などもあわせ、板谷波山の陶芸の魅力を多面的に紹介した。

7月25日-8月24日 開館50周年記念 細川家の名宝と細川護熙の風雅

700 年の歴史を誇る細川家のコレクションから永青文庫(東京都文京区)所蔵の中世螺鈿鞍など国宝 4 点と国指定重要文化財 8 点を含む絵画・工芸・墨跡・茶道具類 73 点、細川家当主で幅広い芸術活動を行っている護熙氏の陶漆芸・書・襷絵・油彩画など 89 点、合わせて 162 点を展示した。8 月 10 日に竹内順一(永青文庫館長)氏による記念講演会「細川家の歴史と永青文庫コレクション」、8 月 17 日に山形大学大学院実習生によるワークショップ「古美術に親しもう 水墨画の世界」を実施。また、新聞連載による作品紹介などにより、国が誇る歴史文化遺産と、それらを受け継いだものが生み出す多様な芸術創造の美を味わう機会とした。

8月30日-9月15日 第69回山形県総合美術展

山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門にあわせて615点が搬入された。大矢紀(日本画)、三沢忠(洋画)、本郷寛(彫刻)、島田文雄(工芸)の4氏によって厳正な審査が行なわれた。会場には、入賞・入選、審査員、委嘱、無鑑査の作品、東北芸術工科大学教員の招待作品をあわせ468点を展示。山形らしい題材をいかした作品が目立った。今年で56回となることも県展には、県内の園児、小中生から過去最多の14,665点の応募があった。国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課課長調査官・岡田京子氏が表したいことを見つけて表現している点を審査し、入賞・入選811点を展示。幅広い多くの県民を対象とし、秋の芸術シーズンの到来を告げる内容となった。

9月20日-9月28日 第39回山形県総合書道展

第39回県書道展には、漢字・かな・調和体・近代詩文・少数・刻字・篆刻の7部門に、高校生から90歳代までの幅広い年代の書家・書道家から、一般公募332点、役員・会友363点をあわせ695点の作品が搬入された。県内の植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、鈴木翔雲、丸森参樹、菊池峰月、高梨甌竹の8氏による審査の結果、県知事賞をはじめとする入賞13点、奨励賞15点、褒状30点と入選237点が厳正に選抜された。会場には入賞・入選作に審査員、役員、会友の書作を加え611点を展示。古典を踏まえた作品、落款まで筆さばきや墨色に神経を行き渡らせた作品が各部門にみられ、県内書壇の充実ぶりを示す内容となった。9月23日には鈴木千岳氏によるギャラリー・トークを実施した。

10月17日-11月16日 開館50周年記念 山形の美術 山形美術館の歩みとともに

官民協力のもとに財団法人を設立し1964(昭和39)年8月20日に開館した山形美術館は、今年で50周年を迎えた。以来、地方に根ざす美術館として、国内外の優れた美術の紹介をはじめ、県民の美術愛好家による公募展や団体展などを開催。「日本および東洋の美術」「山形関係の美術」「フランス近代美術」の3つの方針に基づき、美術作品の収集活動を行い、山形の文化や美術に関する作品の充実を図ってきた。本展は当館の収蔵品から優品177点を厳選して展示した。11月9日加藤千明館長による記念講演会「山形美術館の50年」、10月26日、11月2日学芸員によるギャラリー・トークを実施。山形美術館の50年の活動を紹介するとともに、みちのく「山形」の自然や風土を反映させた絵画、彫刻、工芸など、山形にゆかりのある作家による個性溢れる多彩な表現を再確認する機会とした。

12月13日-26年1月25日 ヨーロッパ絵画展 パロックから近代へ

長野市在住の美術収集家・長坂剛氏が長年にわたって収集してきた「長坂コレクション」より、17世紀のパロック美術と19世紀の近代絵画を5つのセクションに分け、58点の油彩画を紹介した。12月21日に石澤泰典(山形大学人文学部准教授)氏による「パロック美術への誘い-描かれた女性の聖と俗」、1月11日には千足伸行(成城大学名誉教授・本展監修者)氏による「名画の楽しみ パロックから近代へ」と題した記念講演会、1月10日担当学芸員によるギャラリー・トークを実施。市井の人びとが日々の暮らしの中で愛し、彼らの精神生活を豊かに培ってきた西洋絵画を通して、ヨーロッパ文化の醍醐味を存分に味わう機会とした。

2月26日-3月22日 第49回山形県写真展

山形県内の写真愛好家を対象とする本展には、14歳から88歳までの614人から2,348点の一般公募作品が搬入された。デジタルカメラによる作品は88パーセントとなった。2月14日、15日に写真家の土田ヒロミ氏によって公開審査が厳正に行なわれた。写真表現へのこだわり、画面の中のバランスやプリントへの気配りなどを基準に、入賞12点、準入賞10点、努力賞10点、土田ヒロミ賞1点、入選558点が選ばれた。会場には公募作品に、無鑑査作品を加えた614点を展示。ライフワークとして取り組んでいる山形の自然風景、日常生活や家族のスナップ、高校生の瑞々しい作品など、モチーフとの関係を感じさせる多彩な写真が並んだ。

収蔵品展事業

山形美術館では、フランス近代美術、日本の美術、山形県関係美術を3本柱に美術作品および関連資料の収集と調査研究を進めている。これら収蔵品の一部を常設展示しているほか、26年度には以下のテーマ展を開催し、収蔵品を紹介した。

5月14日-5月25日 新収蔵品展

2010年度以降に当館に収蔵された作品から36点を紹介した。株式会社資生堂名誉会長・福原義春氏より寄贈を受けた椿貞雄の油彩画をはじめ、菅原白龍、石川確治、平田松堂、清野克己、長岡宏、武田広男、半田敬史郎など、山形ゆかりの作家の多彩な表現に触れる機会とした。

12月13日-1月25日 吉野石膏コレクションのすべて

吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画109点から、印象派、ポスト印象派、エコール・ド・パリまでを中心に優品82点を展示。同時開催の「ヨーロッパ絵画展 パロックから近代へ」と併せ、17世紀から20世紀までのフランス近代絵画の多様な世界を紹介した。また、やまがた広域観光協議会が実施する「YAMA コレ やまがた冬の3美術館めぐり」に参加し、収蔵品の活用連携に努めた。

収蔵品展事業による、本年度新収蔵品は寄贈 40 件である。大久保傳蔵コレクションとして寄託されていた郷目貞繁や新海竹太郎、細谷風翁、菅原白龍らの 33 作品、山形にゆかりのある島村達彦の油彩・素描など 7 点を受贈。今期末での寄託品を除く収蔵品件数は、基本財産収蔵品の一般正味財産(購入)505 件、指定正味財産(寄贈)1,031 件、合計 1,536 件となった。

展示施設貸与事業

美術に関する創作活動を行っている個人および団体に対し、当館の展示室と展示用備品を貸与する事業を行った。26 年度は、日展山形会展、春光会展、設立 60 周年記念北展、樺墨書院展、示現会山形展、毎日書道展東北山形展、読売書法展東北展、山形市芸文協総合展、墨華会書道展、山形大学造形芸術コース卒業修了制作展、山形デザイン専門学校卒業進級制作展、山形県健康福祉祭美術展など、20 の展覧会を開催した。

その他

収蔵品を活用した事業や指導など以下の事業を行った。

1. 収蔵品館外貸出による他機関への協力

沖縄県立博物館・美術館での「山形美術館・服部コレクション 20 世紀フランス絵画展」開催のほか、「菅野矢一の軌跡」(上山城郷土資料館)、「生誕 200 年ミレー展」(山梨県立美術館ほか)、「近代を写実せよ。三島通庸と高橋由一の挑戦」(那珂宮市那須野が原博物館)、「生誕 100 年 彫刻家桜井祐一」(米沢市上杉博物館)、「新印象派 光と色のドラマ」(東京都美術館)など、他機関の企画展に対し収蔵品貸出の協力を行った。

2. やまがた DC キャンペーン、「YAMA コレ やまがた冬の 3 美術館めぐり」への参加

春から開始された「やまがた DC キャンペーン」で企画された観光ツアーに合わせ、長谷川コレクション室で重要文化財の与謝蕪村《奥の細道図屏風》を展示公開し、学芸員による解説を実施した。冬には、やまがた広域観光協議会が実施した「YAMA コレ やまがた冬の 3 美術館めぐり」に参加、収蔵品を生かした他館との連携に努めた。

3. 山形大学院生の受け入れと指導

山形大学大学院地域教育文化研究科が外部機関と連携し実施する「文化コーディネート実習」のうち、造形コース専攻の学生 2 名を前期(のべ 10 日間)に受け入れ、「板谷波山展」、「細川家の名宝と細川護熙の風雅」を中心に調査・設営・教育普及活動について指導した。

4. 博物館実習生の受け入れと指導

東北芸術工科大学 3 名、宮城学院女子大学 2 名、大阪国際大学 1 名、計 5 名を、のべ 5 日間ずつ受け入れ、作品展示の方法、美術館の機能と業務概要、料の保存管理、地域における美術館のあり方などについて指導した。

5. 美術教育普及活動への協力

やまがたアトライン実行委員会が主催する「夏休み子どもミュージアムめぐり」事業の一環として、8 月 17 日のワークショップ「古美術に親しもう 水墨画の世界」を実施。また山形青年会議所 OB の山形ビューティフルコミッションによる「児童絵画鑑賞プログラム」を 12 月 6 日に実施。参加した子どもたちがアートナビゲーターらの指導のもと、美術鑑賞のマナーと絵の見方を体験した。また、来館の児童生徒団体が希望がある場合、館概要や作品解説を適宜行った。

6. 吉野石膏コレクションの調査

吉野石膏コレクション作品に対する状態調査を森絵画保存修復工房と共同で、8 月と 10 月の 2 回、のべ 6 日間実施した。作品 1 点ごと、作品の表裏、支持体と額の確認に加え、紫外線や赤外線による撮影などによる作品調査を行なった。これにより制作技法の特徴が明らかになるとともに、今後の作品修復の必要性を判断する基礎資料とした。

2. 収益事業

来館者を対象に作品鑑賞後の時間を過ごしてもらう、山形城址が眺められる喫茶室は、9月より有料の飲料自動販売機を設置した休憩室に変更した。また美術関係の書籍やグッズを販売するコーナーにおいて、企画展の内容に合わせた販売物や山形ゆかりの工芸作家作品を引き続いて取り扱った。

3. 法人運営および施設管理

開館50周年記念展開催中の温湿度等の環境管理のほか、施設の維持管理に努めた。

4. 成果と課題

本年度も開館50周年を記念した大型の企画展、収蔵品展の公益事業を当初の予定通り実施し、前述のとおり各事業の目的を達成することができた。だが東日本大震災以後、落ち込んだ入館者数の回復に至らない厳しい状況が依然として続いている。本年度は、やまがたDCキャンペーンや、やまがた広域観光協議会による「YAMAコレ やまがた冬の3美術館めぐり」への参加などにより、広域からの観光客の取り組みを試みたが、今後も効果的な広報・宣伝に努めていきたい。

質の高い美術と出会う場、企画内容・対象者に応じた多様な教育普及事業や、地域機関との連携強化などにより、来館者および地域のニーズを踏まえた山形美術館としての活動を着実に進めていきたい。

平成26年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

[企画展]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
没後50年 板谷波山展	4月3日～ 5月11日	3,250	105	82	1,613	5,050	山美、山新、山放、山形県、毎日新聞社、県生涯学習文化財団、山形市、山形銀行、日本写真印刷	4月26日山形大学大学院地域教育文化研究科と連携したワークショップを開催。5月3日茨城県陶芸美術館の花井久穂学芸員による作品解説、5月5日学習院大学教授 荒川正明氏による記念講演会を行った。
細川家の名宝と 細川護照の風雅	7月25日～ 8月24日	11,508	436	295	2,210	14,449	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、東北芸術工科大学、京都造形芸術大学、日本文化芸術財団、県教委、山形市、山形市教委、県芸術文化協会、山形市芸術文化協会、永青文庫、株式会社不東	7月25日細川夫妻、吉村美栄子県知事、市川昭男山形市長、竹内順一永青文庫館長らによるテープカットおよび護照氏による作品解説を行った。8月10日竹内永青文庫館長の記念講演会を、8月17日、山形大学大学院地域教育文化研究科と連携したワークショップを行った。
第69回山形県 総合美術展	8月30日～ 9月15日	4,898	282	492	2,279	7,951	山美、山新、山放、県美術連盟、山形県、県生涯学習文化財団、市教委、県芸術文化協会、県造形教育連盟、べんてる株式会社	大矢紀(日本画)、三沢忠(洋画)、本郷寛(彫刻)、島田文雄(工芸)の4氏による審査が行われた。また、こども県展を併催。
第39回山形県 総合書道展	9月20日～ 9月28日	359	12	16	1,219	1,606	山美、山新、山放、山形県総合書道会、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委、山形県書道連盟、県芸術文化協会	植松弘祥、荒木扁舟、鈴木千岳、青柳祥雲、鈴木翔雲、丸森参樹、菊池峰月、高梨断竹ら8氏による審査。9月23日鈴木千岳氏によるギャラリートークを行った。
山形の美術 山形美術館の歩みとともに	10月17日～ 11月16日	1,462	56	39	717	2,274	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	開館50周年を記念しコレクションの中から山形ゆかりの作品を展示した。11月9日館長講演会を、10月26日、11月2日学芸員によるギャラリートークを行った。
ヨーロッパ絵画展 バロックから近代へ	12月13日～ 1月25日	2,594	184	90	1,138	4,006	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市、長坂バロック株式会社	12月21日山形大学准教授石澤靖典氏、1月11日成城大学名誉教授千足信行氏による記念講演会を開催。1月10日担当学芸員によるギャラリートークを行った。
吉野石膏コレクションの すべ	12月13日～ 1月25日	2,594	184	90	1,138	4,006	山美、山新、山放、山形県、県生涯学習文化財団、山形市	二階企画展示室と常設展示室を使用して吉野石膏コレクションのほぼすべてを一堂に展覧した。1月18日担当学芸員によるギャラリートークを行った。
第49回山形県 写真真展	2月26日～ 3月22日	1,832	56	72	3,251	5,211	山美、山新、山放、山形県写真連盟、山形県、県生涯学習文化財団、県教委、山形市、市教委	土田ヒロミ氏による公開審査を行った。
企画展 計(A)		28,497	1,315	1,176	13,565	44,553		

平成26年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

[収蔵品展など]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
新収蔵品展	5月14日～ 5月25日	834	24	1	287	1,146		平成23年度から平成25年度にかけて寄託・寄贈されたコレクションの中から36点を紹介した。
常設展示のみ ・巨匠の広場 ・吉野石膏コレクション室 ・新海竹太郎/竹藪彫刻室 ・長谷川コレクション室 ・彫刻の小部屋	5月27日～ 6月1日	1,313	9	5	429	1,756		
	6月3日～ 6月27日	489	10	74	47	620		
	6月28日～ 7月6日	867	50	57	760	1,734		
	7月9日～ 7月13日	96	36	2	14	148		
	7月16日～ 7月20日	245	38	5	794	1,082		
	7月21日	67	1	2	-	70		
	9月28日	1	2	-	-	3		
	10月1日～ 10月5日	310	6	139	2,023	2,478		
	10月8日～ 10月13日	307	1	24	1,514	1,846		
	11月19日～ 12月10日	248	22	8	141	419		
1月27日～ 2月22日	376	21	5	105	507			
3月25日～ 3月31日	89	11	5	20	125			
収蔵品展計(B)		5,242	231	327	6,134	11,934		

館主催展計(C=A+B)		33,739	1,546	1,503	19,699	56,487		
--------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

[展示施設貸与事業など]

事業名	期間	入場者数					主催、共催、後援など	備考
		一般	高・大生	小・中生	会員・招待	計		
日展山形会展	5月21日～ 6月1日	1,985	15	5	638	2,643	日展山形会、山形新聞・山形放送	
春光会展	5月28日～ 6月1日	954	-	-	-	954	春光会	
創琢書道展	6月5日～ 6月8日	506	-	-	-	506	創琢書道会	
設立60周年北展	6月11日～ 6月15日	293	146	161	526	1,126	東北現代美術協会	
雷友会書道展	6月19日～ 6月22日	298	-	-	-	298	雷友会	

平成26年度 開催展覧会と入場者数

山形美術館

山形県民ふれあい書道展	6月28日～7月6日	867	50	57	760	1,734	山形県民書道会	
樺墨書院展	7月9日～7月13日	1,209	-	-	-	1,209	樺墨書院	
示現会山形展	7月16日～7月20日	245	38	5	794	1,082	示現会、示現会山形支部	
毎日書道展 東北山形展	10月1日～10月5日	310	6	139	2,023	2,478	毎日新聞社、毎日書道会	
読売書法展東北展	10月8日～10月13日	305	-	23	1,514	1,842	読売新聞社、読売書法会	
MOA美術館山形県児童作品展	10月25日～10月26日	1,331	-	-	-	1,331	MOA美術館山形県児童作品展実行委員会	
翔龍会全国書道展	10月31日～11月3日	375	-	-	-	375	翔龍会	
北展(公募)	11月19日～11月23日	286	9	26	539	860	東北現代美術協会	
山形市芸術協会総合展覧会	11月19日～11月23日	3,067	-	-	-	3,067	山形市、市教委、市芸術文化協会	
墨華会書道展	11月27日～11月30日	1,027	-	-	-	1,027	墨華会	
東邦書道会全国展	12月4日～12月7日	583	-	-	-	583	東邦書道会	
山形大学造形芸術コース卒業修了制作展	2月4日～2月8日	569	-	-	-	569	山形大学地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース	
誠筆書展	2月4日～2月8日	1,009	-	-	-	1,009	誠筆会	
山形デザイン専門学校卒業進級制作展	2月18日～2月22日	726	-	-	-	726	山形デザイン専門学校	
山形県健康福祉祭美術展	2月19日～2月22日	1,019	-	-	-	1,019	山形県、山形県社会福祉協議会、山形県老人クラブ連合会	
展示施設貸与事業計(D)		16,964	264	416	6,794	24,438		

全展覧会 総計(E=C+D)		50,703	1,810	1,919	26,493	80,925		
-------------------	--	--------	-------	-------	--------	--------	--	--

平成 26 年度新収蔵品リスト

平成 27 年 3 月 31 日現在

寄贈

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
郷目貞繁	あやめ図 (1969年度寄託)	16世紀前半	紙本・彩色	94.7×42.6
新海竹太郎	風竹図(鳳枝吟月) (1969年度寄託)	1884	紙本・墨画	148.0×77.3
新海竹太郎	風竹図 (1969年度寄託)		紙本・墨画	130.0×42.0
新海竹太郎	松と舟 (2001年度寄託)		紙本・墨画	135.3×32.7
新海竹太郎	風竹図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	16.0×23.6
菅原白龍	山水図 (2001年度寄託)		紙本・淡彩	175.3×83.9
菅原白龍	田家端午 (2001年度寄託)		紙本・淡彩	23.5×16.7
菅原白龍	牛画賛 (2001年度寄託)		紙本・墨画	33.8×46.7
菅原白龍	群花図 (2001年度寄託)	1881	紙本・淡彩	167.2×67.4
菅原白龍	松竹梅 (2001年度寄託)		紙本・墨画、双幅	各 136.3×51.8
菅原白龍	山水図 (2001年度寄託)		紙本・墨画、双幅	各 133.1×31.6
菅原白龍	小色紙貼交屏風 (2001年度寄託)		紙本・墨画、二曲一隻	各 14.0×15.2 屏風 167.0×156.0
菅原白龍	松梅図(扇面) (2001年度寄託)		紙本・淡彩	19.2×45.0
細谷風翁	淡彩牧牛図 (2001年度寄託)	1879	紙本・墨画・淡彩	178.2×51.7
細谷風翁	竹之図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	168.6×93.0
細谷風翁	竹石図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	137.5×61.0
細谷風翁	雪月山水図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	157.5×60.0
細谷風翁	水墨松竹梅 (2001年度寄託)	1881	絹本・墨画	138.4×51.5
細谷風翁	水墨山水図 (2001年度寄託)	1870	絹本・墨画	132.6×45.7
細谷風翁	水墨山水図 (2001年度寄託)	1878	紙本・墨画	152.8×46.5
細谷風翁	蘭石図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	125.1×55.2

細谷風翁	菊華(菊石)図 (2001年度寄託)	1859	絹本・着色	129.4×41.8
細谷風翁	苔石図 (2001年度寄託)		紙本・墨画	106.3×52.6
細谷風翁	花鳥図 (2001年度寄託)		紙本・淡彩、三幅対	各136.2×31.7
細谷風翁	化物之図 (2001年度寄託)		紙本・墨画、三幅対	各56.0×31.1
細谷風翁	書と蘭図 (2001年度寄託)		紙本・墨画、三幅対	左右104.4×31.2 中106.0×30.3
細谷風翁、米山 細谷米山	蘭菊図 (2001年度寄託)	1882	紙本・墨画	172.1×47.7
細谷風翁、米山 ほか	貼交屏風 (2001年度寄託)		紙本・墨画、二曲一隻	各69.3×18.4 屏風156.8×144.4
細谷風翁、米山 細谷米山	竹石図 (2001年度寄託)	1872	紙本・墨画	167.6×93.7
細谷米山	蘭石図 (2001年度寄託)	1884	紙本・淡彩	136.5×40.7
張秋谷	山水図 (2001年度寄託)		絹本・墨画	149.9×38.6
島村達彦	いのり (2011年度寄託)	1957	キャンバス・油彩	80.5×65.3
島村達彦	山形中学校本館 (2011年度寄託)	1980	キャンバス・油彩	16.5×43.2
島村達彦	山形中学校本館 (2011年度寄託)	1980	紙・鉛筆・水彩	27.7×36.3
島村達彦	ソ一風景 (2011年度寄託)	1965	紙・鉛筆	34.0×26.5
島村達彦	山形中学校舎 (2011年度寄託)	1980	紙・リノカット	26.5×37.5
島村達彦	山形中学校舎と校歌 (2011年度寄託)	1980	紙・リノカット	26.5×37.2
島村達彦	書酒のうた (2011年度寄託)	1998	紙・墨書	51.5×37.5
細谷風翁	張秋谷山水賛 (2001年度寄託)	1880	紙本・墨書	76.8×28.5
菅原白龍	文房供具の図 (2001年度寄託)		板・漆絵	36.2×47.3

以上の美術品40件を基本財産収蔵品(不可欠特定財産)とする。

平成 26 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借 受 館 又 は 借 受 者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
菅野 矢一	自画像 少女像 赤いコート 教会の丘 岬の夕	上山城郷土資料館	菅野 矢一 の 軌 跡	4/22-6/17
ピカソ ほか	青い背景の婦人像 など60点	沖縄県立博物館・美術館	山形美術館・服部コレクション 20世紀フランス絵画展	7/6-9/6
ミレー	農場へ帰る羊飼い	宮城県美術館 山梨県立美術館 府中市美術館	生誕200年ミレー展 - 愛しきものたちへのまなざし -	7/6-1/23
浅井 忠	モンクール風景	佐倉市美術館	佐倉学 - 浅井忠展	7/26-9/26
高橋 由一 菅原 白龍	山形県景観画集 栗子峠写生画帖	那須塩原市那須野が原博物館	近代を写実せよ。 三島通庸と高橋由一の挑戦	9/23-12/10
ミレー	バター作りの女	宮城県美術館	生誕200年ミレー展 - 愛しきものたちへのまなざし -	10/21-12/18
葛飾 北斎	富嶽三十六景 全46点	白鷹町文化交流センター	葛飾北斎「富嶽三十六景」展	11/5-12/9
高嶋 祥光	黄河作戦従軍絵巻 川崎家内の図 若松観音に登る 鷹匠	最上徳内記念館	生誕120年高嶋祥光展	11/18-1/29
桜井 祐一	特務兵 など12点	米沢市上杉博物館	生誕100年彫刻家 桜井祐一 ～ 生命の造形～ 木彫・ブロンズの世界	12/4 -
ピサロ	キューガーデンの大温室前 暖をとる農婦	東京都美術館	新印象派 光と色のドラマ	1/10-

平成 26 年度収蔵品貸出一覧

作 者 名	作 品 名	借 受 館 又 は 借 受 者	貸 出 事 由	貸 出 期 間
葛 飾 北 斎	富 嶽 三 十 六 景 全46点	パラミタミュージアム 富 山 県 民 会 館 美 術 館 安 城 市 歴 史 博 物 館 広 島 県 立 美 術 館 水 野 美 術 館	北 斎 の 富 士 - 富嶽三十六景と富嶽百景-	3/17-
シャガール	パイプを持つ男 翼のある馬 花嫁の回想	姫 路 市 立 美 術 館	没後30年 シャガール展	3/26-